

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502165		
法人名	有限会社ライフ케어アイ		
事業所名	グループホームらいふ敬愛(パンジー)		
所在地	札幌市豊平区月寒東2条5丁目4番8号		
自己評価作成日	令和6年4月10日	評価結果市町村受理日	令和6年5月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170502165-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和6年4月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様にゆったりと楽しく笑顔の絶えない住まい作りを目指しています。利用者様がこれまで経験されてきたと思われるひな祭りやお彼岸のおはぎ作りなど季節の行事を大切に行いながら利用者様にとっての生きがいや楽しみ、安心してくつろげる事を模索し、ホームの名前でもある「人生の先輩として尊敬し愛する」を心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームらいふ敬愛」は、地下鉄東豊線月寒中央駅から徒歩で10分程の閑静な住宅地に立地している2階建て2ユニットの事業所である。建物内は吹き抜けから明るい光が注ぐ開放感のある回廊型で、居間や食堂の壁には職員や利用者の手作り装飾が施されている。清掃も行き届いており、清潔感のあるグループホームである。日々の活動の中に、ゲームや制作などのレクリエーション活動を積極的に取り入れ、それぞれの利用者が笑顔で楽しい日々が過ごせるよう工夫している。個別での買い物や外食などにも可能な限り対応し、その人らしい生活が継続できるように支援している。職員が利用者の好みを取り入れて献立を作成して一緒に調理をしたり、季節に応じたおやつ作りを行うなど楽しい食事時間を過ごしている。職員は、手紙の作成や投函を手伝いながら馴染みの人との関係が継続できるような支援にも熱心に取り組んでいる。管理者は職員の意見や提案を普段から聞き取り、ケアや運営、シフト調整などに反映させて働きやすい職場環境の整備に努めている。受診も職員が同行し、利用者の健康状態を細かく伝えて適切な医療が受けられるように支援している。管理者を中心に全職員で利用者一人ひとりの思いに寄り添いながら柔軟に対応している職員の姿勢は、家族の安心感につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(パンジー)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知症が進んでも、その人らしく生活していく」という理念を実践していけるよう、理念をホールに掲示、名札の裏に入れ、理念に基づいた月間目標をたてて共有し実践に努めている。	運営理念の中に「地域との交流を図り、その地域に存在するホーム造りを目指します」という、地域密着型サービスを意識した文言が含まれている。廊下など目につく場所に掲示し、職員の意識づけを図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為頻度は減っているが、散歩の折にはご近所の庭先の花を楽しみ、逆にホームの花壇の手入れもして下さるなど交流を図っている。	町内会の行事は無くなったが、資源回収に参加したり散歩で近隣住民と挨拶を交わしている。冬休みに小学生が職業体験のボランティアとして来訪し、利用者と話をしながら交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資源回収の協力や近所の散歩や買い物、運営推進会議を通じ認知症の理解や支援方法を相談している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	パソコンやらいふ便りを見て頂きながら行事報告や認知症介護の取り組みを報告している。近隣の方や包括職員、民生委員、ご家族のアドバイスを受けながらサービス向上に繋がるよう努めている。今年はコロナ禍の為書面会議を行っております。	地域代表や地域包括支援センター職員が参加し、事故報告や内部研修、集団指導や外部評価の結果などを報告している。会議内での説明が十分議事録に記載されているとは言えない。家族の参加も難しくなっている。	研修内容やテーマに沿った資料を添付したり質疑応答を記録するなど、更なる議事録の充実を期待したい。また、テーマを記載した会議案内を全家族に送付し、参加できない家族の意見や質問も会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点は市・区役所の担当者と連絡を取り相談している。市の管理者会議や集団指導などで情報を得ている。	加算に関することを市役所に聞いたり、介護認定の確認などで区役所に連絡することがある。書類の提出も、ほとんどメールで行っているが、何かあれば情報交換しながらすぐに相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い、身体拘束をしない介護を目指している。事務所の壁に禁止行為を掲示し、スピーチロックについて日頃から話し合うようにしている。身体拘束適正化委員会を定期的に開催し職員に周知している。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備し、年2回勉強会を行っている。今後の勉強会で、禁止の対象となる具体的な行為11項目の再確認を予定している。3か月ごとに実施している身体拘束適正化委員会と虐待委員会の議事録を見やすく整備したいと考えている。	身体拘束適正化委員会の議事録に、身体拘束の有無や事例に沿った検討内容を記録するなど、更なる議事録の充実を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度虐待防止委員会を行い、勉強会や報道等があった時など職員間で話し合いをしている。あざなど皮膚トラブルを発見した時は皮下出血報告書に記入し原因や解決策を話し合い再発防止に努めている。		

グループホームらいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(パンジー)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方もおり、研修などで職員と制度を理解しご家族から相談を受けた時は随時対応できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に契約書及び重要事項説明書について説明し同意を得ている。不安や疑問点がないか尋ね、分かりやすい説明をするよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	らいふ便りを毎月発行し、運営推進会議や来訪時に近況報告を行っている。SNSやメールでも気軽にご意見いただけるよう周知運営に反映させている。	面会時に利用者の様子を伝えて意見や要望を聞き取り、内容に応じてメモ書きや連絡ノートに記録して情報を共有している。毎月「らいふだより」を作成し、写真やコメントで家族に利用者の様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や個人面談を行い、代表者や管理者は日常的に意見交換を行っている。職員が代表者、管理者に意見を伝えやすい環境づくりを意識している。	管理者は、普段から職員が意見や提案を言いやすい雰囲気作りに配慮している。利用者の対応について意見交換したり、職員の勤務意向などもシフトに反映させている。職員は、広報誌作成やレクリエーションなどの係を担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表・管理者は個々のやりがい等の把握に努め、給与に反映するなど働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を定期的に行い、外部研修やネットを活用した研修を取り入れスキル・知識の向上に努めている。無資格者には認知症基礎研修、経験を詰んだ職員には実務者研修を受講してもらうなど個々のレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・区の管理者連絡会等コロナ禍の為開催されていないが、他ホームの運営推進会議に出席するなど近隣のホームと意見交換を行っている。入居の問い合わせがある時は豊平区管理者連絡会で発行している空き情報や金額等情報提供に活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(パンジー)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得た情報を基に面談時に困っていることや不安な事を話しやすいよう、ゆったりと傾聴できる時間を設け信頼を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活歴や前サービス等の情報を元に、ご家族と相談し安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が望んでいることが違う場合もあるが、よく話し合いサービス対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活歴や個性を大切にできることは可能な限り本人に、できないところを支援し関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来所していただいております、近況報告しています。SNSやホームページに行事の様子を載せて遠方のご家族にも共に本人を支えていく関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と協力しながら知人・友人の面会や電話や年賀状、絵手紙など季節のあいさつを交わされるよう努めています。	学校の後輩が訪ねて来たり、手紙が届く利用者もいる。職員は手紙の返信作成を手伝ったり、投函を支援している。感染症の流行で家族と外出する方は少なくなっているが、家族の家に出かけた利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう職員が間に入り会話や食事、家事を楽しめるよう支援しています。		

グループホームらいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(パンジー)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でもいつでも相談を受け入れることを伝えている。代表は電話や年賀状などで交流を続け、これまでの関係を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを多く持ち、職員同士情報を共有し思いを汲み取るよう努めている。意思を上手く伝えられない方はご家族からの情報や表情、行動など観察し思いを汲み取りケアプランに反映させるようにしている。	会話や行動、表情などから思いや意向を把握している。利用開始時に、基本情報や暮らしの情報シートなどセンター方式シートを作成しているが、追記や更新は行われていない。	書面で利用者の現状が把握できるように、変化に応じて「私の暮らし方シート」(B-3)に具体的に追記したり、定期的に更新をして介護計画の見直しに活かすよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式を記入して頂き、本人やご家族の会話から趣味や生活歴など情報を得られるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活日誌、業務日誌、健康管理表、往診記録、連絡ノートを活用し入居者様の現状の把握に努め、毎日の申し送りやミーティングを通じて職員との共通認識に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間での話し合いや日々の記録でアセスメントを行い、本人、家族、医師の意見を取り入れケアプランを作成している。	計画作成担当者が各職員に利用者の変化などを聞いて評価を行い、6か月ごとに介護計画を作成している。今後は本人や家族の意向を具体的に記録に残し、介護計画に反映させたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子や会話、サービス内容を生活日誌に記載し、ケアプランとの連動に努めている。毎月課題や問題点を話し合い、質の良い支援ができるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マニュアルや時間に束縛されず、柔軟に個々の希望に添えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で行えなかったがボランティアによる演奏会を企画するなど利用者の楽しみに繋がる支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携先の往診を2週間に1回受けて頂き、内科以外の通院は家族と事業所が通院支援を行い、適切な医療を受けられるよう支援しています。	全員が協力医療機関の往診を受けている。専門医を受診する時もほとんど事業所で通院支援を行い、医師に健康状態を詳しく伝えている。受診と往診は「往診・受診記録」に個別に記録している。	

グループホームらいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(パンジー)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護師による健康チェックを受けており、日々の情報の共有や相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した時は管理者が主に病院と連絡を取り合っている。家族・関係者と連携し早期退院に向け関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、身体状況が変化した場合、主治医、家族を交えて十分に話し合いを行なっている。職員、医師、看護師、家族ともに協力しご本人に寄り添った支援を行っている。	利用開始時に「看取りに関する指針」に沿って、常時医療行為が必要になった時は対応が難しくなるが、希望に応じて看取りを行うことを説明している。昨年度も看取りに合わせて研修を実施し、2名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し対応の流れを確認している。都度医師、看護師に相談・指示を受けながら対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間の火災を想定した避難訓練、地震を想定した訓練を行っています。消防設備業者、地域住民宅と火災通報装置を連動し協力体制を築いている。カセットコンロ、水、食材や発電機、ストーブを備蓄している。	昨年度は感染症の流行により、夜間の火災や地震を想定した机上訓練を1回のみ行っている。近年、地域との協力体制の確認や地域住民が参加した避難訓練は実施していない。職員の救命講習は計画的に進める予定である。	地域との協力体制を再確認し、防災協会や地域住民の協力を得て昼夜の火災や地震を想定した避難訓練を実施するよう期待したい。また、災害時のケア別の個別対応について話し合い、記録に沿って定期的に再確認するよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様を「敬い愛する」気持ちを常に持ち、言葉使いやプライバシーに配慮した対応、声かけをするよう努めています。	接遇研修を行い、理念に沿ったケアができるよう心がけている。呼びかけは「さん」付けとし、申し送りは部屋番号で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話の中で希望を探ったり、気兼ねせず希望や思いを話せるよう心がけ自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調に配慮しながら一人一人のペースに合わせて希望に沿うよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切にし、本人の好む服装や身だしなみ、おしゃれができるよう支援している。		

グループホームらいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(パンジー)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った料理を利用者と相談しながら献立を作成している。ホットプレートを使い、皆で食事・おやつ作りに参加できるように支援している、	献立から調理まで職員が手作りし、嚥下能力に合わせて提供している。利用者のリクエストに応え、誕生日や行事食も楽しくなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量、体重は日誌、健康管理表に記入し情報を統一している。一人一人の状態や能力に応じた好みの物や食事形態、食器の工夫を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の状況に応じて見守り、介助しています。担当の訪問歯科医や訪問歯科衛生士に助言を頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日誌に排泄パターンを記録し、職員間の情報共有に務めている。紙おむつに頼らないよう声かけのタイミングや失禁用下着などを使用し排泄の自立に向けた支援を行っています。	排泄記録をタブレット端末で管理し、パターンを把握している。日中、夜間とも自尊心を尊重し、可能な限りトイレでの排泄を基本としている。入居後、適切な支援で排泄の失敗が減った方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳、ヨーグルトを提供し、体操や散歩など運動する機会を作っている。水分調整など下剤に頼らないよう工夫と予防に務めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調により臨機応変に対応できるように毎日入浴できる環境にしています。	週2回の入浴を基本に、毎日午前中を中心に入浴が可能となっている。利用者の習慣を把握し、入浴剤の使用や好みのシャンプーを使い入浴が楽しいものとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムや体調、気分に合わせて休んで頂いています。昼夜逆転にならないよう家事や他利用者様と楽しんで、安心して就寝できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を活用し理解するよう務めている。薬の変更があった時は日誌・健康管理表に記入し症状の変化を医師・看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ヴァイオリン演奏や飾りつけなど季節の行事や家事仕事など一人一人が楽しみ・得意分野を活かせるよう支援しています。		

グループホームらいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(パンジー)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出は控えています。暖かい日は近所の散歩で庭先の花や公園で保育園の子どもの様子を楽しみ、社用車で外食やイルミネーション見学に出かけるなど外出支援を行っています。	普段は事業所周辺を散歩したり、個別の買い物や外食支援も行っている。春は羊ヶ丘の森林総合研究所で花見をしたり、紅葉狩りはドライブを兼ねて盤渓方面に出かけている。冬季もイルミネーション見学を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則ホームで管理させて頂いている。買い物時やお孫さんにお小遣いをお渡しすることもあり個々に合った支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には自由に電話できるよう支援しています。遠方のご家族や親戚から品物が届いた時はお礼の電話をかけて頂いたり毎年年賀状を出せるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には季節に合わせた手作りの作品や写真を掲示し話が弾むよう工夫をしています。年2回業者による清掃とワックス掛けを行い、床暖房、クーラー、加湿器を使用し快適に過ごせるよう調整しています。	回廊型の造りで共用空間は吹き抜けからの日差しも明るい。各所に温度変化もなく、清潔に保たれ、快適に過ごせるよう管理されている。壁には職員手作りの日めくりカレンダーや職員と利用者合作の季節飾りや行事写真が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内に木のベンチを設置し、ソファや食卓テーブルで思い思いに過ごせるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のドアは引き戸で背の高低差を解消した取手を設置している。馴染みの家具や仏壇、好みの絵や写真を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫しています。	居室入り口には氏名を表記し、自室が分かりやすくなっている。整理タンスやテレビ、写真、ぬいぐるみ、作品等を飾り、落ち着いて過ごせる工夫をしている。趣味の楽器を持参している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心・安全を心がけ、日時がわかるよう目立つところにカレンダーや時計を配置、トイレの場所がわかるポスターを設置し自立した生活を送れるよう環境作りに努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502165		
法人名	有限会社ライフケーアイ		
事業所名	グループホームらいふ敬愛(カトレア)		
所在地	札幌市豊平区月寒東2条5丁目4番8号		
自己評価作成日	令和6年4月10日	評価結果市町村受理日	令和6年5月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様にゆったりと楽しく笑顔の絶えない住まい作りを目指しています。利用者様がこれまで経験されてきたと思われるひな祭りやお彼岸のおはぎ作りなど季節の行事を大切に行いながら利用者様にとっての生きがいや楽しみ、安心してくつろげる事を模索し、ホームの名前でもある「人生の先輩として尊敬し愛する」を心掛けております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyCd=0170502165-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年4月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(カトレア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有の実践につなげられるようにしていきたい。施設要所に理念を掲示して実現に向けて取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に、挨拶や庭の花などを見せていただいたりの交流があったが、今は、コロナの蔓延で交流が難しくなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域の行事等の参加をすることで、認知症の理解や支援の方法を伝える機会があったが、今はできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見をいただければ、そのことを協議し、サービスに活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者をとうして伝え聞くことで、協力関係を築けるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルをもとに勉強会を実施して理解、防止につとめている。利用者の安全のために、センサーなどを使用することもある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、ミーティングでの情報交換などを通じて防止に努めている。常に見過ごさないように、自己にこの行為が正しいのか自問するようにしている。		

グループホームらいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(カトレア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方もおり、職員は研修などで制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、説明等は管理者をどうして行うことが多いが、不安や疑問は理解をしていただくように説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望をよせられた時は、管理者に報告。職員とも話し合い、利用者、家族にも説明報告をしていく。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、提案を伝えられる職員と話す機会をもてない職員がいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を活用し、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内や参加の呼びかけ、研修費や勤務調整などを行い、参加しやすい環境になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生の受け入れ、ホームの見学などの交流はあったが、コロナになってからはできていない。		

グループホームらいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(カトレア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得た情報をもとに、本人からの話や行動を見守り、穏やかな信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活歴など、家族からの聞き取りを行い、これからのホームでの要望他、不安ななどを聞くことでより良い関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望、本人の今必要とされることを見極め、職員とも話し合い、情報を交換してサービスを提供していく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活のなかで、できる家事仕事やりたいことを他利用者や職員と一緒にすることで穏やかな絆をきざしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のらいふ便りや、来訪時に日常生活の様子を説明、情報を提供ができています。本人が電話をのぞまれた時や、家族からの電話にも対応ができています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪されたときの面会や、電話の対応はできている。、馴染みの場所などの外出は、家族への協力、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の好き、嫌いなどの人間関係もあり、職員がかかわることや、座る席などを工夫して関りを支援している。		

グループホームらいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(カトレア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もいつでも相談、支援を受け入れることができることを伝えているが、あまり要望がない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴し、本人の希望、意向にそうように、職員とも情報を交換し対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、本人からの話を聞き日常生活に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活日誌、業務日誌、健康管理表などを活用し職員とも情報交換し 把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向にそうように、本人の様子観察、などを行い職員、医師、看護師との情報交換意見交換などを行い介護計画に取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を生活日誌に記録し、毎日の申し送りで情報を共有し、変化のある時は話し合い、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や、家族の状況に応じて必要なサービスを提供出来る様に取り組んでいるが、難しい時もある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナのために活用ができていない。以前は、ボランティアの支援を提供して頂くこともあった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の往診のほか、必要な時は24時間対応をしてくれます。症状によっては必要な病院受診もできている。		

グループホームらいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(カトレア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護師の健康管理を受けている。看護師ともよき関係をもち、相談もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報の提供はできているが、入院中は家族をどうしての情報になることが多い。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期の方向性を説明確認をしている。終末期には、看取り介護計画を医師、家族、職員とも相談してより良い介護にとり組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成して対応の流れを共有している。かかりつけ医への相談、報告、往診も24時間対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルに基づいて行動をしていく。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮して一人ひとりを尊重して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る様に、分かりやすい表現で説明している。日常生活の中での行動を見守り、希望を受け止めていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気分や体調に配慮し本人のペースに合わせて生活が出来る様、その日にしたいことがあれば、職員の支援のもとにできている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな色、着やすさなどを考慮して職員の支援のもとで、選んでいる。		

グループホームらいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(カトレア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事にあわせたメニューを提供している。かたづけなどは難しいが、おやつと一緒に作ることはできる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量や水分量を健康管理表に記載している。食べやすい形態を工夫して食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、朝、晩の口腔ケアの実施、毎日の義歯洗浄をしている。口腔内に問題がある時は、歯科往診をお願いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターンを記載して、職員が共有し、声掛け、介助、支援を行っている。自立している方の見守りを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の牛乳やヨーグルトの提供、排便状況を把握し、便秘が続く時は、処方薬の内服、または医師に相談する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週二回、本人の体調に合わせて、職員介助、見守りで行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に考慮して、休息をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を活用して、理解するようにしている。確実に内服出来る様に支援をしている。錠剤が飲み込めない時は、医師に相談、形態を工夫して提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までしていた、趣味や、手仕事、特技を活かして楽しむことができているが、職員の支援が必要です。		

グループホームらいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(カトレア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出が必要時にしかできていない。これからは戸外の散歩や家族との外出もできるようになります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方もいるが、家族の希望もあり各自のお金を預かり、必要時に本人が使用出来る様に支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話に出ることも、本人が希望される時にも可能です。手紙のやり取りもできるが、自ら書くことは難しく職員の支援で行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度管理を適切に行っている。季節感のある飾り付けをしたり、飾り物を一緒に作るなどをしている。利用者の行動を見極め共有の空間を整理をしている。トイレや各自の部屋などを表示し分かりやすく工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席や、ソファーを使用してお話や新聞を見たりテレビやビデオを楽しんでいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していた家具や、本人のこだわり、馴染みの物を飾り、落ち着いて過ごせるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行が出来る様に手すりや、トイレに介助バーをつけています。分かりやすいように表示も工夫しています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームらいふ敬愛

作成日 令和 6年 5月 17日

市町村受理日 令和 6年 5月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	入居時にセンター方式を記入しているが、追記や更新をしていない。	入居者の変化に応じて追記・見直しを行い介護計画の見直しに活用していく。	変化に応じて「私の暮らし方シート(B-3)」に定期的に(介護計画の見直し時)更新する。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。